

参考:開講時予定内容

科目名	経済演習	単位	教員名	上田 義朗
		6単位	開講曜日時限	

主題

今年度の私の研究演習は「アジア経済における環境変化とビジネス活動の対応に関する理論的・実証的研究」をテーマとする。研究対象は、アジア諸国の経済枠組みにおける個別企業の具体的なビジネス活動である。

その問題意識は次の通りである。米中貿易戦争が継続している中で、中国は2013年から「一帯一路構想」、日本は2016年から「自由で開かれたインド太平洋戦略」を主張している。さらに米国は2022年5月にIPEF（インド太平洋経済枠組み）構想を発表した。こうした大きな構想下で2018年の「環太平洋連携協定（TPP）」、2022年の「地域的包括的経済連携（RCEP）」が発効している。これらはアジア企業の成長にとって大きな影響を及ぼす制度的な枠組みである。このように新型コロナ禍の影響の大小に関わらず、アジア諸国の経済環境は激変している。

他方、国連のSDGs（持続可能な開発目標）が事業活動のテーマとなり、さらにESG（環境・社会・統治）が株式投資基準として重視されている。これらは日本を含むアジア諸国の企業に対して脱炭素化やDX（デジタルトランスフォーメーション）の技術開発、さらに企業の人権尊重や企業統治・法令遵守の厳格化を促している。

以上、アジア諸国の経済環境は激変しており、それに対応してアジア企業のビジネスも改革が求められている。それには同時にビジネスの好機やリスクが伴っている。

到達目標

各自の研究テーマの論文作成を通じて、新たな学術的・実務的な知見を抽出・発表できる。

概要と授業計画

<概要>

受講生の個別指導です。

研究計画に基づいた研究内容の修正と改善を指導します。

アジア諸国における現地調査も指導します。

<授業計画>

初年度は、毎回の講義時間に先行研究を検討する。また実証研究・実態研究を準備する。

次年度は、先行研究の論点を整理し、実証・実態研究を実施し、論文作成を進める。

いずれの年度も、講義時間中よりも夏期・冬期・春期休暇中の有効な研究活動が求められる。

成績評価方法

平常点と報告の内容の他、修士論文の内容で最終評価する。

履修にあたっての注意・助言他

課題図書・研究テーマに関する十分な議論・検討が可能なように予習また発表準備を周到に実施する。

私が指導可能なアジア諸国は、東南アジアではCLMV（＝カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム）、南西アジアではネパール。そのほかに中国・インドに対しても対応が可能です。

教材

<教科書>

各自の研究テーマに応じて課題図書を指示する。

<プリント資料及び参考文献>

適宜、指示する。

オフィスアワー

研究棟	II	研究室 No.	2602
曜日	時間帯		
火	12:10～13:00		